



入学・進級おめでとうございます

新入生を迎え、新年度が始まりました。皆さんもそれぞれに希望と抱負を胸に抱き、目標を定めて今日を迎えていることと思います。この1年、学習や部活動、生徒会活動に励み、一人ひとりが充実した毎日を送って自己を高め、進路希望の実現に向けて大きく前進することを期待しています。

さて、令和2年度入試から導入された「大学入学共通テスト」をはじめとして、今後も大学入試は大きく様変わりし、受験生を評価する要素も変化していくことが予想されます。また、これから皆さんが進む大学や専門学校または社会においては、「問題解決」「課題解決」のために必要な、人と意見を交わす「対話力」や、互いに強調して答えを導く「協働力」が求められます。このような変化の激しい時期に高校生活を送り、進学先や就職先を適切に選択していくには、高校生の進路を取り巻く環境の変化に留意し進路に対する意識を一層高め、低学年のうちから将来を見据えて行動を起こす必要があります。希望する進路が学年進行とともに変わっていくことも少なくありません。日頃から欠席や遅刻を無くし、学力と体力を高め、職業や大学と学部・学科の研究をしておくことは誰にとっても大切です。

《 4月の進路関係行事 》

10日(月)	スタディーサポート(1年)
10日(月)～11日(火)	課題考査(2・3年)
12日(水)～18日(火)	面談週間(担任との二者面談)
19日(水)	平常日課外開始
20日(木)	公務員講座①



【充実した1年とするために】 ～ 一日も早く真剣な取り組みを ～

本校卒業生の進路は、国公立大学から公務員や民間企業への就職まで様々です。公務員試験の出願は6月から、民間企業の求人票公開は7月から始まり、いずれも試験は9月から始まります。大学等の総合型選抜は9月から、学校推薦型選抜は11月から始まります。大学入学共通テストの出願は9月末に行い、試験は翌年の1月に行われます。進路について考え、必要な準備をするのに“早すぎる”ということはありません。進路は、自分の意思と責任で選ぶものです。高校3年間の過ごし方次第で将来が大きく変わることを肝に銘じ、目標を持って1日1日を大切に過ごしてください。

☆ 進学情報 ～志望校の選び方～

受験生にとって、受験勉強と同様に大切なのが「志望校選び」です。大学数は年々増加し、学校基本調査（文部科学省）によれば、2022年度の大学数は807校にのぼります。2019年度から専門職大学が開設され、短期大学から（4年制）大学への移行などもあり、今後も大学数は増加するでしょう。一方、18歳人口は減少傾向にあり、数字上では希望者全員が大学に合格できる「全入時代」を迎えています。大学入学自体の価値は相対的に小さくなり、「どの大学で、何をどう学んだのか」がますます問われることになりました。

志望校の選択は、その後のキャリア形成に大きな影響を与えることになります。「この科目は苦手だから」「成績がこのくらいだから」などという消極的な理由で志望校を選択してしまうと、後々後悔をすることになるでしょう。進路を決めるのは簡単なことではありませんが、自分は何に興味があって何を学んでいきたいのか、どんな職業に就きたいのか、その目標のためにどのような学部・学科を目指せばいいのか、自分自身の方向性をしっかり考えてみるようにしましょう。

〈志望校選びのポイント〉

① 自分の将来を考える

志望校・志望学部を選ぶ前に最初にするべきことは、自分の将来の進むべき方向について真剣に考えることです。できれば、比較的時間に余裕のある高1から高2の間に、「何を学びたいのか」「どのような職業に就きたいのか」をじっくり考えてみるとよいでしょう。興味のある学問分野や職業に関する書籍を読んだり、インターネットで関連サイトを閲覧したりして、積極的に考えるための情報を収集しましょう。

② 進みたい学部・学科を見つける

自分の将来の方向性がある程度見えてきたら、目標を達成するために必要な専門知識やスキルを学ぶことができる学部・学科を調べてみましょう。看護師や建築士など、職業や資格と専門の学部が直結している場合はわかりやすいですが、そうでない場合は、まず大学にどんな学部・学科があるかを調べて、その中から自分の目標に適した学部・学科を探していくとよいでしょう。

③ 個別の学校を調べる

学びたい分野や学部・学科が決まったら、受験校を決めることになります。ただし、入試難易度や知名度だけで学校を選ぶと入学した後で後悔することにもなりかねません。大学を中退する原因の一つが、学生と大学とのミスマッチによるものと言われています。受験前に自分の目的や性格に合った学校かどうか、オープンキャンパスなどを利用してあらかじめ自分自身の目でしっかりと確かめることが重要です。

〈選択のポイント〉

- ・カリキュラムの特徴
- ・教員の研究内容
- ・就職や大学院進学状況
- ・学費および奨学金や学生支援の充実度
- ・キャンパスの雰囲気、施設・設備の充実度
- ・学生数（入学者数・退学者数）
- ・留学プログラムの充実度

（参考：東進進学情報）